

## 浜岡原発、防潮堤6mかさ上げ 南海トラフ想定見直しで

[原発再稼働](#)[フォローする](#)

2024年11月13日 18:12

保存



中部電力の浜岡原発（静岡県御前崎市）は南海トラフ地震に伴う津波に備え防潮堤をかさ上げする=共同

[中部電力](#)は13日、浜岡原子力発電所（静岡県御前崎市）の防潮堤の高さを現状の海拔22メートルから28メートルにかさ上げする方針を原子力規制委員会に伝えた。南海トラフ地震で想定される津波の高さの見直しを踏まえ、再稼働をめざす原発の敷地が津波で浸水しないように対策を強化する。

同社は3月に、従来22.7メートルと見込んでいた南海トラフの津波の高さを25.2メートルに見直した。規制委は10月にこの想定を「おおむね妥当」と判断。中部電力は再稼働に必要な対策として防潮堤のかさ上げを検討していた。

工事では防潮堤上部の4メートル分を取り壊し、新たに10メートル分を作り直す。強度を確保するため、防潮堤の構造の強化や地盤改良なども行う。かさ上げに伴う設備投資額や工事期間は未定。

浜岡原発の防潮堤は2011年の東日本大震災を受けて建設され、12年に完成した当初の高さは18メートルだった。全長は約1.6キロメートル。その後、想定される津波の高さが19メートルに再設定されたのを受け、15年末に22メートルにかさ上げされた経緯がある。

中部電力は同日、浜岡原発3、4号機の再稼働に必要なプラント審査を並行して行うよう規制委に申請した。3、4号機は構造が共通する部分が多く、審査を効率化する狙いがある。2年程度でプラント審査の完了を目指す。

林欣吾社長は記者団に「再稼働に必要な審査はステップアップした。あくまでも通過点であり、再稼働時期を言える段階にはない」と述べた。

#### 【関連記事】

- ・ [浜岡原発の津波想定25メートル超、規制委が了承](#)
- ・ [原子力規制委員会、浜岡原発を調査 設備解体など確認](#)
- ・ [中部電力、浜岡原発の津波想定を最大25.2メートルに上げ](#)

## 地域ニュース

全国各地の最新記事やおすすめコラムはこちら

すべての記事が読み放題  
まずは無料体験（初回1カ月）

[有料会員に登録する](#)

### 有料会員限定

キーワード登録であなたの  
**重要なニュースを  
ハイライト**

## 中部電力、浜岡原発の津波想定を最大25.2メートルに上げ

静岡

フォローする

2024年3月14日 17:43

保存



中部電力の浜岡原子力発電所（静岡県御前崎市）=共同

**中部電力**が浜岡原子力発電所（静岡県御前崎市）で想定される最大規模の津波の高さについて、25.2メートルになるとの評価結果をまとめたことが14日わかった。南海トラフ地震が発生した場合の最大22.7メートルという従来の想定を改め、南海トラフと海底地滑りが連続発生した場合はさらに2.5メートル高くなると見積もった。

次回の原子力規制委員会の審査会合で提示する。中部電力は新たな想定が認められれば今後、追加の対策を講じる。現在22メートルしかない防波堤のかさ上げが中心になる見通しだ。

浜岡原発は3、4号機が再稼働の前提となる原子力規制委の審査を受けている。中部電力は22年に津波の高さが最大22.7メートルとする想定を示していたが、今回は南海トラフによる津波と、その地震動が引き起こす海底地滑りによる津波が敷地前面で重なり合う厳しい条件で想定を出し直した。

## 浜岡原発の津波想定25メートル超、規制委が了承

経済

フォローする

2024年10月11日 18:18

保存



原子力規制委員会は11日、[中部電力](#)浜岡原子力発電所（静岡県）の審査会合で、敷地に到達する最大の津波の高さを海拔25.2メートルとする中部電の想定をおおむね了承した。既設の防潮堤の高さ22メートルを大きく上回るため、追加対策が必要となる。

中部電は南海トラフ巨大地震と、原発の西約68キロメートルの遠州灘沖での海底地滑りが連続発生した場合の津波が最大になるとした。

中部電は浜岡3、4号機の再稼働に向けた審査を2014～15年に申請。防潮堤は16年3月に完成した。〔共同〕



すべての記事が読み放題  
まずは無料体験（初回1カ月）

有料会員に登録する

### 有料会員限定

キーワード登録であなたの  
**重要なニュースを  
ハイライト**